

第28回 七五読み古事記勉強会

屎麻理散

倭塾サロン
小名木善行

前回までのお話

須佐之男命の提案により、

二神はおのおの子を

生むことになりました。

はじめに女性の三神が、

次に男性の五神が生まれました。

須佐之男命は、

「我が心が清かるゆえに

我が手弱女(たおやめ)を得たのだ。

だからワシが勝ったのじゃ」

と勝ちを荒々しく宣言しました。

今回のお話

勝利宣言をした須佐之男命は、天照大御神が営(いと)まれている田んぼの畦(あぜ)を壊し、大事な水路の溝を埋(う)め、また天照大御神が大嘗祭を行われる神殿に屎(くそ)をまき散(ちら)しました。

ところがそのようなことがあっても天照大御神は須佐之男命をとがめず、

「私のいとしい弟が

屎(くそ)まき散らしたのは

酔って吐き散らそうとして、

このようなことになったのでしよう。

また田の畦(あぜ)を壊し、

水路となる溝(みぞ)を埋(う)めたのも、

きつと土地を新しくしようとしての

ことでしょう」

と、悪い行いを善い行いに言い直されました。

その後も須佐之男命の悪い行いは止まず、ますます激しいものとなりました。

天照大御神が、忌服屋(いみはたや)と呼ばれる神様の衣を織る神聖な建物で

神に奉る御衣を織(お)らせているときに、

須佐之男命はその服屋(はたや)の屋根に

穴を空けて毛色のまだらな天の斑馬(ふちうま)を

尾の方から皮を剥いで落とし入れました。

このとき天の服織女(はたおりめ)がそれを見て

驚いて、織物に横糸を通す舟形の木器の梭(ひ)

で陰部を衝(つ)いて死んでしまいました。

七五読み

あまてるかみは とがめずに

天照大御神者登賀米受而

のらされるには 「くそなすは

告「如屎

よひてはきちる ところなり

醉而吐散登許曾（此三字以音）

あがなせみこと かくのごと

我那勢之命為如此

たのあぜのみぞ うめるのは

又離田之阿埋溝者

ちのあたらしき ところなり

地矣阿多良斯登許曾

（自阿以下七字以音）

あのなせみこと かくのごと」

我那勢之命為如此」

とのらすもすぐに あしきさま

登（此一字以音）詔雖直猶其惡態

やまずてうたず あまてるは

不止而轉天照大御神

いみのはたやに いまされて

坐忌服屋而

かみのみそをば おらします

令織神御衣

このときいます いみはたや

之時穿其服屋

はたやのむねを うがちては

之頂

あめのふちうま さかはぎに

逆剥天斑馬

はいてはおとし いるるとき

剥而所墮入時

あめはたおりめ おどろきて

天服織女見驚而

ひでほとつきて しにましき

於梭衝陰上而死

（訓陰上云富登）